

内閣記者会・霞クラブ・財界クラブ(経団連)
京都府政記者クラブ・京都市政記者クラブ・京都経済記者クラブ
日本外国特派員協会

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 「STSフォーラム」第5回年次総会を10月5日(日)から京都にて開催

報道関係者各位

東京、2008年9月30日—科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム「STSフォーラム」第5回年次総会が、「自然との調和」と「情報通信技術の人類への影響」という全体テーマのもと、2008年10月5日～7日、京都で開催される。本フォーラムは、衆議院議員尾身幸次が、各国の主要関係者と共に2004年11月に立ち上げた国際的なイニシアティブである。

皇太子殿下が閉会式で御言葉を述べられる予定である。

世界90以上の国・地域・国際機関から、800名を上回る参加者が2日間半に渡る討議プログラムに参加する。参加予定の大臣・政策立案者は35名であり、その中には、リノ・バラニャオ科学技術・生産革新大臣(アルゼンチン)、ジェイ・コーエン国土安全保障省科学技術担当次官(米国)、グレース・エクピフレ科学技術大臣(ナイジェリア)、クリスティナ・ガルメンディア・メンディザバル科学イノベーション大臣(スペイン)、ハニー・マフフーズ・ヒラル高等教育科学研究大臣(エジプト)、黒川清内閣特別顧問・政策研究大学院大学教授、野田聖子科学技術政策担当大臣・消費者行政推進担当大臣、アネット・シャヴァーン教育研究大臣(ドイツ)、カピル・シバル科学技術大臣兼地球科学大臣(インド)、アンドリュー・フォン・エシェンバツハ食品医薬品局(FDA)長官(米国)が含まれている。

世界的に著名な有識者や大学関係者では、5人のノーベル賞受賞者(ローム・ト・フリードマンマサチューセッツ工科大学(MIT)教授(米国、1990年ノーベル物理学賞)、ユアン・T・リー中央研究院原子分子化学研究所名誉所長兼特別研究員(中華台北、1986年ノーベル化学賞)、マリオ・モリーナカリフォルニア大学サン・ディエゴ校教授(メキシコ、1995年ノーベル化学賞)、野依良治化学研究所理事長(日本、2001年ノーベル化学賞)、F・シャーウッド・ローランドカリフォルニア大学アーバイン校ナルド・ブレン研究所科学教授兼物理科学研究科化学・地球構造学教授(米国、1995年ノーベル化学賞)が参加予定であるほか、アルデン・ベーム国立科学財団(NSF)長官(米国)、カトリーヌ・プレシニャック国立科学研究センター(CNRS)総裁兼国際科学会議(ICSU)次期会長(フランス)、イェゴール・ガルダー過渡期経済研究所所長(ロシア)、林康夫日本貿易振興機構(JETRO)理事長、小宮山宏東京大学総長、緒方貞子国際協力機構(JICA)理事長、フリッツ・シュレツサースイス連邦工科大学(ETH)チューリッヒ校理事長(スイス)、路甬祥中国科学院院長(中国)が参加予定である。

主要な財界人としては、デビッド・ブレナンアストラゼネカ CEO(英国)、古川一夫日立製作所代表執行役執行役社長・日本経済団体連合会副会長、S.クリス・ゴパラクリシュナンインフォシス・テクノロジーズ CEO(インド)、長谷川閑史武田薬品工業代表取締役社長、チャールズ・ホリディ Jrデュポン会長兼最高経営責任者・米競争力評議会会長(米国)、ジェフリー・キンドラーファイザー会長兼CEO、岡本一雄トヨタ自動車代表取締役副会長、ステーション リスゴーノボザイムス社長兼CEO・ヨーロッパバイオ会長(デンマーク)、佐々木元NEC代表取締役会長、ロバート・トムソンウォール・ストリート・ジャーナル編集長兼ダウジョーンズ編集主幹(オーストラリア)、ユルゲン・トゥーマンドイツ産業連盟会長(BDI)(ドイツ)が参加予定である。

添付書類:(1)プログラム(暫定版)、(2)参加確定各国関係リスト、(3)参加確定登壇者リスト、(4)報道取材要項(一式)

お問い合わせ先: NPO 法人 STS フォーラム東京本部	事務局長: 芹澤 ゆう 広報担当: アラニヤ・ルディーピーヌ Tel. 03 3519-3351 / Fax 03 3519-3351 e-mail: press@stsforum.org / URL: www.stsforum.org
9月30日から10月7日まで STS フォーラム事務局 (京都国際会館内) / プレス・オフィス Tel: 075-705-2051 / Fax: 075-705-2055	

『科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム』（STSフォーラム）
第5回 年次総会
平成20年10月5日（日） - 7日（火）
於 国立京都国際会館

プログラム

※全ての討議は英語で行われ、同時通訳のご用意はございません。

2008年 10月 5日（日）

100	10:30 - 11:30	開会式：「科学技術の光と影」
	11:45 - 13:00	ビュッフェ・ランチ（全参加者対象）
101	13:20 - 14:50	全体会議：「科学技術の重要課題と発展」
102	14:50 - 15:50	全体会議：「情報通信技術の人類への影響」
	15:50 - 16:30	コーヒー・ブレイク
103	16:30 - 18:30	分科会 第1シリーズ
104	18:30 - 19:30	カクテル・パーティー
105	19:30 - 21:00	公式晚餐会：「科学技術の光と影」 （着席式、本人及び同伴者のみ）

2008年 10月6日（月）

200	08:30 - 09:50	全体会議：「科学技術と健康サービス」
	09:50 - 10:20	コーヒー・ブレイク
201	10:00 - 12:00	分科会 第2シリーズ
202	12:20 - 14:05	ワーキング・ランチ：「政治指導者と科学者の対話」
203	14:20 - 16:20	分科会 第3シリーズ
	16:20 - 16:50	コーヒー・ブレイク
204	16:50 - 18:00	全体会議：「バイオ燃料の食糧生産及び環境への潜在的な影響」
205	18:30 - 20:00	スペシャル・ビュッフェ・ディナー（全参加者対象） 於：建仁寺

2008年 10月 7日（火）

300	08:30 - 09:25	全体会議：「分科会総括」
301	09:25 - 10:15	参加者オープン・セッション
	10:15 - 10:45	コーヒー・ブレイク
302	10:45 - 11:45	全体会議：「21世紀の科学技術の役割」
303	11:45 - 12:30	閉会式：「自然との調和への回帰-我々に何ができるのか」
304	12:30 - 13:30	フェアウェル・ビュッフェ・ランチ（全参加者対象）
	14:15 - 14:45	記者会見

以上

S T S フォーラム第5回年次総会参加確定各国閣僚リスト

9月26日現在

〈大臣〉

	国名	氏名	役職
1	アルバニア	ファトス・ベジャ	教育科学大臣
2	アフガニスタン	アルミザイ・サンギン	通信・情報技術大臣
3	アルゼンチン	ホセ・リノ・バラニャオ	科学技術・生産革新大臣
4	ベナン	ヴィセンティア・ボッコ	高等教育・科学研究大臣
5	ブルガリア	ダニエル・ヴァシレフ・ヴァルチェフ	教育科学大臣
6	カメルーン	マデレーヌ・チュエント	科学研究・イノベーション大臣
7	エクアドル	ファンダー・ファルコーニ	計画・開発大臣
8	エジプト	ハニー・マフフーズ・ヒラール	高等教育・科学研究大臣
9	エリトリア	セメール・ルツソン	教育大臣
10	ドイツ	アネッテ・シャヴァーン	連邦教育研究大臣
11	ガーナ	エリザベス・オヘネ	高等教育・科学大臣
12	ホンジュラス	ミレアム・エリザベス・メヒア	科学技術大臣
13	ハンガリー	カロリイ・モルナー	科学技術政策担当無任所大臣
14	インド	カビル・シバル	科学技術兼地球科学大臣
15	ケニア	サリー・J・コスゲイ	高等教育・科学技術大臣
16	レソト	モテジョア・メッティング	通信・科学技術大臣
17	リビア	アブダルガデル・アルバクダディ	教育大臣
18	マリ	ディアラ・マリアム・フランティ・ディアロ	通信・新技術大臣
19	モロッコ	アーメド・チャミ	産業・通商・新技術大臣
20	モザンビーク	ベナンチオ・マッシーニユ	科学技術大臣
21	ナイジェリア	グレース・エクピフレ	科学技術大臣
22	パキスタン	アターウル・ラーマン	連邦高等教育委員会担当大臣
23	フィリピン	エストレラ・アラバストロ	科学技術庁長官
24	ルワンダ	ロマン・ムレンジ	科学・技術・科学研究・情報通信技術大臣
25	スペイン	クリスティナ・ガルメンディア・メンディザバル	科学・イノベーション大臣
26	スリランカ	ティッサ・ヴィタラナ	科学技術大臣
27	スーダン	イブラヒム・オマール	科学技術大臣
28	スーダン	エルズベイル・バシル・ターハ	農業大臣
29	タンザニア	ジュマンヌ・マゲヘムベ	教育・職業訓練大臣
30	タンザニア	ベーター・ムソラ	通信・科学技術大臣
31	タイ	ウティポン・チャイサン	科学技術大臣
32	チュニジア	ラズハール・ブオーニ	高等教育・科学研究・技術大臣
33	ウガンダ	ガブリエル・オビオ	教育・スポーツ（高等）大臣
34	ザンビア	ベーター・M・ダーカ	科学技術・職業訓練大臣
35	ジンバブエ	オリビア・ムシェナ	科学技術開発大臣

STS フォーラム第5回年次総会 2008年(平成20年)10月5日ー7日、京都市

参加が確定した主な講演者 CONFIRMED MAJOR SPEAKERS

(敬称略)

政治指導者・政策立案者(POLITICAL LEADERS / POLICY MAKERS)

リノ・パラニャオ	科学技術・生産革新大臣、アルゼンチン
ジェイ・コーエン	国土安全保障省科学技術担当次官、米国
クリスティナ・ガルメンディア・メンディザバル	科学イノベーション大臣、スペイン
ハニー・M・ヘラル	高等教育科学研究大臣、エジプト
アショク・クマール	英国下院科学技術議会オフィス議長、英国
チュアン・ポー・リム	科学技術研究庁(A*STAR)長官、シンガポール
野田 聖子	科学技術政策担当大臣・消費者行政推進担当大臣、日本
アンネット・シャヴァーン	教育研究大臣、ドイツ
カピル・シバル	科学技術大臣兼地球科学大臣、インド
アンドリュー・フォン・エッセンバック	米国食品医薬品局(FDA)長官、米国

学術・科学・研究機関の長(ACADEMIC / SCIENTIFIC / RESEARCH INSTITUTES LEADERS)

アルデン・ベームト Jr	国立科学財団(NSF)長官、米国
カトリーヌ・プレシニャック	国立科学研究センター(CNRS)会長、フランス
フランス・コルドヴァ	パデュー大学学長、米国
イェゴール・ガルダー	過渡期経済研究所所長、ロシア
林 康夫	日本貿易振興機構(JETRO)理事長、日本
カレストゥス・ジュマ	ハーバード大学科学・国際関係ベルファーセンター教授 (国際開発実践)、ケニア
ミハウ・クライベル	ポーランド科学アカデミー会長、ポーランド
小宮山 宏	東京大学総長、日本
緒方 貞子	国際協力機構(JICA)理事長、日本
フランチェスコ・プロフォーモ	トリノ技術大学学長、イタリア
イアン・レスリー	ケンブリッジ大学副学長、英国
路 甬祥	中国科学院院長、中国
カリン・マルキデス	チャルマース技術大学総長、スウェーデン
モンコンブ・スワミナサン	M. S. スワミナサン研究財団評議員会会長、インド

ビジネス・リーダー(BUSINESS LEADERS)

ロバート・ベルナルド	マイクロソフト・チーフ環境ストラテジスト、米国
マーク・ブレグマン	シマンテック上級副社長兼最高技術責任者、米国
デビッド・ブレナン	アストラゼネカ CEO、英国
古川 一夫	日立製作所代表執行役執行役社長・日本経済団体連合会副会長、日本
S.クリス・ゴパラクリシュナン	インフォシス・テクノロジーズ CEO、インド
ポール・L・ハーリング	ノバルティス・インターナショナル法人研究部長、スイス
チャールズ・ホリディ Jr	デュポン会長兼最高経営責任者・米競争力評議会会長、米国
チャンギユ・ファン	サムスン電子技術総括社長、韓国
伊藤 千秋	富士通代表取締役副社長、日本
レイ・ジョンソン	ロッキード・マーティン上級副社長兼最高技術責任者、米国
ジェフリー・キンドラー	ファイザー会長兼CEO、米国
岡本 一雄	トヨタ自動車代表取締役副会長、日本
ステーション リスゴー	ノボザイムス社長兼CEO・ヨーロップバイオ会長、デンマーク
佐々木 元	NEC代表取締役会長、日本
ウィリアム・スウォープ	インテル法人部門担当副社長兼ジェネラル・マネージャー、米国
ユルゲン・R・トゥーマン	ドイツ産業連盟(BDI)会長、ドイツ

ノーベル賞受賞者(NOBEL LAUREATES)

ジェローム・I・フリードマン	マサチューセッツ工科大学(MIT) インスティテュート・プロフェッサー 兼物理学部物理学教授、米国(1990 年物理学賞)
ユアン・T・リー	中央研究院原子分子化学研究所名誉所長、兼特別研究員、 中華台北(1986 年化学賞)
マリオ・モリーナ	カリフォルニア大学サン・ディエゴ校教授、メキシコ(1995 年化学賞)、
野依 良治	理化学研究所理事長(2001 年化学賞)
F・シャーウッド・ローランド	カリフォルニア大学アーバイン校ドナルド・ブレン研究所科学教授兼物 理科学研究科化学・地球構造学教授、米国(1995 年化学賞)

メディア(Media Leaders)

ウィルソン・ダシルバ	コスモス誌編集主幹、オーストラリア
パラブ・K・ゴーシュ	BBC ニュース科学担当記者、世界科学ジャーナリスト連盟会長、英国
クリストファー・パワー	ビジネスウィーク誌国際版編集次長、米国
チャナ・ショーエンベルガー	フォーブス誌共同編集者、米国
ロバート・トムソン	ウォール・ストリート・ジャーナル編集長兼ダウジョーンズ編集主幹、 オーストラリア

報道取材要項

◆ プレスセンターのご利用について

フォーラム開催期間中は会場内の5Fにプレスセンターを設けます。ファックス、コピー機、LAN回線によるインターネットのご利用が可能です。事前にお申し込みいただいた場合には、スピーカーや参加者との個別インタビューを事務局(プレス担当)によって手配させていただきます。尾身 幸次STSフォーラム理事長と主要な講演者が出席する閉会後記者会見を2008年10月7日(火)に14時15分から国立京都国際会館で開催いたします。

◆ 取材要項(注意事項)

ペン(記事)記者の方は、開会式及び全体会議等の他に分科会の取材も可能です。ただし分科会の討議内容に関しては、チャタムハウスルール(注1)を遵守いただき、発言者を特定できないようお願いいたします。

(注1)チャタムハウスルール

本フォーラムにおいては、参加者に自由に発言していただくため、チャタムハウスルールを適用しています。要点は次の通りです。

- ① 会議における発言を公刊文書やマスメディアにおいて引用する場合、発言者が特定されるようなかたちでの引用は行わない。
- ② 「○○というテーマに関し、△△という意見が出た」という引用はよいが、発言者の名を明記しても、しなくとも、発言者を推測できるようなかたちでの引用は行わない。

食事を伴うセッションは、原則プレス参加不可とさせていただきます。但し、ビュッフェ・ランチ(10月5日 11:45 - 13:00)及びスペシャル・ビュッフェ・ディナー(10月6日(月) 18:30 - 20:00)に関しては、ディナー開催中に得た情報をオフ・レコ扱いにさせていただくという制約の下でご参加いただけます。

◆ テレビ取材要項

会場内でのテレビ撮影は下記のセッションのみ可能です。事務局の事前許可なく、下記の場所・時間以外での撮影はお断り申しあげます。

1. 10月5日(日)	10:30 - 11:30	開会式 (Opening Plenary Session)
	13:20 - 15:50	全体会議 (Plenary Sessions)
2. 10月6日(月)	08:30 - 09:50	全体会議 (Plenary Session)
	16:50 - 18:00	全体会議 (Plenary Session)
3. 10月7日(火)	08:30 - 12:30	全体会議及び閉会式 (Plenary Session & Closing Plenary Session)
	14:15 - 14:45	閉会後記者会見 (Closing Press Conference)

※ 各取材位置とも、カメラは1社1カメラ(ENGは系列1カメラ1補助)、ペン(記事)記者は1社1記者による限定取材をお願いします。

◆ プレス登録

取材を希望する報道関係者の方は、STSフォーラムのホーム・ページから以下の要領にてお申し込み下さい。STSフォーラムの登録サイト<http://www.stsforum.org/> にアクセスし、左下のPress Roomを開き、Media Accreditation Requestボタン(オレンジ色)をクリックして、登録画面に入ります。

- ① 必要項目を入力してください。(登録サイトは日英両字で用意しております。)
- ② STSフォーラムの取材を申請される方は、press@stsforum.org まで証明写真をお送りいただくことになります。登録サイト上の注意事項に従って送付してください。

登録締め切り:2008年10月3日(金)18:00 厳守願います。

- ③ プレス登録申請完了のメールをお送りしますので、当日は完了メールを印刷の上、記者証と共にプレス専用受付までお持ちください。

◆ 皇太子殿下の取材

07:30 amに正面玄関をオープンし、プレス登録を開始します。

10:00 amまでに、必ず受付を済ませてください。

- ① 御着(11:27 am)の取材 [正面玄関]

10:50に国立京都国際会館正面玄関前に集合願います。

- ② 閉会式(11:45 am)の取材 [メインホール正面]

10:00に国立京都国際会館正面玄関前に集合願います。

- ③ 閉会式(11:45 am)の取材 [メイン・ホール上手]

10:00に国立京都国際会館正面玄関前に集合願います。

- ④ フェアウェルビュッフェ・ランチ(12:39 pm)の取材 [スワン]

冒頭5分、ペン取材のみとなります。カメラ取材はありません。

※ 御日程の時刻は、取材の便宜上お知らせしており、部外秘扱いをお願いいたします。

※ ①、②、③相互の移動は不可能です。

※ 集合時刻に遅れた場合は、取材できませんのでご注意下さい。

※ 指定された取材位置以外での取材、撮影はできません。

※ 閉会式(11:45 am - 12:30 pm)の間は、退出することはできますが、メイン・ホールへの再入場はできません。

◆ 取材記者証の交付

所定の場所に設置される報道担当受付デスクで交付致します。その際は、本人確認のため必ず写真付きIDないし記者証とメールコピーをご提示ください。

10月4日(土)受付時間: 10:00 - 18:00 (グランドプリンスホテル京都 ロビー階)

10月5日(日)受付時間: 08:30 - 19:30 (国立京都国際会館 ロビー)

10月6日(月)受付時間: 07:00 - 18:00 (国立京都国際会館 ロビー)

10月7日(火)受付時間: 07:30 - 13:00 (国立京都国際会館 ロビー)

お問合せ先:

STSフォーラム事務局 (東京)

事務局長: 芹澤 ゆう

広報・渉外担当: アラニヤ・ルディービーヌ

Tel: 03-3519-3351

Fax: 03-3519-3352

Email: press@stsforum.org